

釧新郷士芸術賞に輝く

< 4 >

釧路の文化活動

に大きな足跡

アマチュア演劇を通して釧路の文化活動に大きな足跡を残す演劇研究集団「どらま・ぐるうぶ」(永田秀郎代表)は、創立十二年、公演回数二十二回。職場第一主義の方針を貫き、スタッフの突如の転勤などのアクシデントと戦いながら演劇活動への情熱を燃やし続ける努力が、まず高く評価される。

受賞者の横顔

◇演劇

どらま・ぐるうぶ

(代表 永田秀郎氏)



永田代表

四十一年の旗上げ公演「翠の上」

年参加

市芸術祭にも毎

や職場の都合で常時参加できない友の会会員が三千人。二十歳前後の若手が増えつつあるという。

目標は「創作劇」への挑戦

レベル向上の励みに

「解たがレベルの高い戯曲を積極的に取り上げてきた。釧路市芸術祭にも毎年参加し、この三年間は最終日を飾っている。劇団設立目標の「地方演劇の担い手になる」は、難解でも紹介する価値のある作品に挑戦する姿勢によく現れている。「劇中の文学性を追求しよう」は、フランス戯曲を中心に「セリフ」ことばを重視した作品を選び、政治劇などを極力避ける一などがそれだ。一観客に責任を持つことにつ

「三島由紀夫」以来「アンチゴエ」では、入場料に見合わない舞台「又」(J・アヌイ、四十二年)「愛と死の戯れ」(ロマン・ロラ、四十五年)「ターニャ」(A・アルプゾフ、五十年)などの大作「みんな我が子」(A・ミラ、五十二年)「友達」(阿部公房)など年々思っているが、舞台の内容も、これを励みにレベルアップをめざし

(つづき)



ことしの芸術祭公演「赤い陣羽織」の舞台げい古中のどらま・ぐるうぶのメンバーたち